

## 【実践内容】

特別支援学級が合同で主催する「ふれあいコンサート」は、児童が日ごろの練習の成果を発表し、通常級の児童や教職員に見てもらって感想や励ましの言葉をいただくことができる貴重な交流行事となっている。日ごろの練習の成果を認めてもらうことで、児童の自信にもつながっている。

## ○単元目標

- ・活動を通して、学校の友達や特別支援学級の仲間との交流を楽しむことができる。
- ・進んで「ふれあいコンサート」に向けての話し合いや準備をすることができる。
- ・自分や友達の役割が分かり、協力して活動に参加できる。
- ・練習の成果を認めてもらうことで、達成感を味わうことができる。

## ○実践の概要

- ・今年もふれあいコンサートがあることを知り意欲を持つ。
- ・曲の練習に取り組む。
- ・音楽家の先生の指導を受け、さらに意欲を高めて取り組む。
- ・コンサートをPRする方法を話し合う。 ・ポスターや放送原稿を作成し、PRを行う。
- ・会場の飾り作りを行う。 ・リハーサルや会場作りを行う。
- ・来場者に喜んでもらえるコンサートをめざして、コンサートを開く。
- ・コンサートの振り返りを行う。(保護者・教職員の言葉や来場者の感想文などから)
- ・お世話になった方々がいることに気づき、感謝の気持ちを伝える。

## ○知的好奇心について

## 意欲を持たせるための曲選び

- ・児童の興味のあるもの
- ・他の単元と関係のあるもの
- ・希望や幸せを伝えるもの
- ・季節に関連のあるもの
- ・主催者にも参加者にも慣れ親しんでいるもの(校歌など)

## 意欲を持続させるための手立て

- ・昨年度のコンサートの写真や感想から、「ふれあいコンサート」を行うことへの意欲を持つ。
- ・いろいろなパートを体験してから、自分に合うパートをしぼっていき、最終的に決めることができるようにする。
- ・練習が進んできたころ、曲を魅力的にするための新たな内容を入れていく。
- ・早い段階から取り組むことで上手にできる曲を作っておき、自信をもたせるようにする。
- ・手話ソングの複雑な手話を少し簡略化し、児童の実態に合ったゆっくりしたリズムで行うことができるようにする。取り組みやすくすることにより、達成感を味わわせるようにする。
- ・来場者に感想を書いてもらうことにより、来年度もがんばろうという意欲を持たせる。

## 児童の様子

- ・いろいろなパートを経験することで、自分のやりたいパートを決めることが比較的スムーズにできた。・役割分担の話し合いではやりたい役を進んで発表し、希望が重なった時は仲間に譲る姿も見られた。
- ・練習に慣れてきたころ、歌の間に楽しい動作を入れることで飽きることなく練習に取り組むことができた。
- ・早い段階から継続して取り組む手話ソングを設けたため、児童が自信を持って取り組むことができた。
- ・ボランティアの手話講師に、児童の実態に合った、ゆっくりしたリズムでできる手話の組み合わせを考えたため、児童は意欲を持って取り組み、達成感を味わうことができた。
- ・コンサートの練習の仕上げとして、音楽家の先生の指導を受けることができた。コンサートを聞いてもらう心構えをしっかりと教えていただき、歌の指導をしていただいた。よりよいコンサートにしていきたいという意欲が高まっていた児童の気持ちにぴったりの指導であったため真剣に受け止めることができた。
- ・コンサート当日は、たくさんの児童や職員の前で発表することができ、励ましの言葉やがんばったことを認める声かけや感想をいただいた。このことが、児童一人一人の自信へとつながった。